

科学技術・学術審議会等における電子ジャーナル問題に関する審議経過

年月	報告書等	概要（ポイント等）
2016年 2月	学術情報のオープン化について 【科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会】	機関リポジトリをセルフアーカイブ（グリーンOA）の基盤として 拡充 オープンアクセスジャーナルの育成 （J-STAGEの基盤整備）
2014年 8月	大学等におけるジャーナル環境の整備と我が国のジャーナルの発信力強化のあり方について 【ジャーナル問題に関する検討会】	各大学ではミッションやニーズ、置かれた状況を考慮した上で、最も 合理的な契約形態を選択 ナショナル・サイト・ライセンス は経済的な観点から 合理的かどうか疑問、契約の固定化と予算の硬直化も懸念 ジャーナル契約見直しのセーフティネットとして、論文を機関リポジトリで公開する オープンアクセスを全国的に推進 学協会活動や日本発のプラットフォームの強化など、 日本発のジャーナルの強化 関係機関の連携を強化
2012年 7月	学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について 【科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会】	科学研究費補助金 において、これまで紙媒体の発行経費に限定している助成対象について、 国際情報発信力の強化 を支援する方向で改善すべき オープンアクセスジャーナルの育成 を推進するため、 新たな重点支援のための区分 を設け、新たなオープンアクセスジャーナルへの取組を促進 機関リポジトリによる情報発信への取組を研究者の個人評価の観点に加えることが重要
2009年 7月	大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について 【科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会】	柔軟で持続性のある新たな契約形態 を早急に検討し出版社との契約交渉を行うことが必要 交渉力強化の観点から、国公私立大学全体を包括する交渉のための組織の在り方 や関係者による対応方策等についての検討の場の設定について検討が必要 学術情報発信強化のため、 オープンアクセスを一層促進 NIIやJSTの関連事業の拡充 、研究者の意識改革 国が直接外国出版社との契約を行う ナショナル・サイト・ライセンス の導入は、 現実的ではなく、それと個別契約の中間的な方法を考えることが適当 機関リポジトリの構築 をさらに 推進 、大学におけるリポジトリ事業の位置付けの明確化、図書館業務としての定着、維持体制の整備 各機関が共通利用できる 共用リポジトリシステムの構築 学協会の国際的な情報発信力を強化するため、 学術雑誌の電子化を一層促進
2006年 3月	学術情報基盤の今後の在り方について 【科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会】	電子ジャーナルへの対応を含めた 安定的な学術情報収集への財政投資 学術情報の流通促進等のため 機関リポジトリを積極的に整備 インパクトファクター を論文そのものの評価として利用することは 問題が大きく避けるべき